

学校目標・経営方針	「進取の精神」のもと、自ら思考し実践する、これからの社会で輝ける生徒の育成
-----------	---------------------------------------

本年度の重点目標	確かな学力の定着を図るとともに、主体的に社会を生き抜いていく生徒の育成	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	多様性を認め合い、協働しながら学び活動し続ける生徒の育成		B	概ね達成できた。(6割以上)
	地域・社会とのつながりを通じて、社会に貢献できる生徒の育成		C	不十分である。(4割以上)
	教員の働き方改革に関する取組の推進		D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価				年度末評価(1月20日現在)		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	確かな学力の定着を図るとともに、主体的に社会を生き抜いていく生徒の育成	<p>学習者を主体とした授業づくりに努めるとともに、ICT機器の有効活用により授業改善に取り組み、生徒の基礎学力と学習習慣を定着させる</p> <p>新学習指導要領を確実に実施し、各教科で評価方法の充実・改善に取り組むとともに、生徒の自己肯定感を醸成させる取り組みを行う</p> <p>「やまなしスタンダード」の実践に向け、相互授業参観を通して教科を超えて学び合い、魅力ある授業づくりに取り組む</p>	<p>・授業アンケート</p> <p>・学校評価アンケート</p> <p>・観点別評価</p> <p>・通知表への表記方法</p> <p>・相互授業参観の状況</p> <p>・授業アンケート</p> <p>・学校評価アンケート</p>	<p>○ICTの活用については、教員、生徒共に肯定的な回答が90%を超え、授業におけるICT活用が確実に定着してきた。また学習者を主体とした授業づくりについても、教員では79%、生徒では85%と肯定的な回答が多い。</p> <p>○教科・同一科目担当者間で、授業内容や指導方法、評価方法等について話し合っていると回答した教員が82%、観点別評価が明確に伝わっていると回答した生徒は83%と高いが、観点別評価が教員の指導改善、生徒の学習改善に繋がっていない現状もある。</p> <p>○年2回の相互授業参観に加え、公開研究授業への参加呼びかけや外部講師によるICT活用研修会を複数回実施した。</p>	B	<p>○全ての教職員が、授業においてICTを積極的に活用している。用途としては、教材提示や授業の振り返り(リフレクション)としての活用が中心になっている。今後、全体研修及び教科会議等を通じ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICTをより効果的な活用へと発展させていきたい。</p> <p>○学習者が中心となる授業づくりの取り組みが進む中、授業に充実感や達成感を感じている生徒の割合が増加傾向ではあるが低い評価となっている。この課題に対して全職員が共通認識をもち、更なる授業改善を推進していきたい。具体的には、①授業の目標を明確に示す、②生徒が主知的に課題に取り組める時間を確保する、③生徒の特性に応じた指導を意識・実践する、④振り返りを通じ自らの変容を実感させる、等が考えられる。</p>
2	多様性を認め合い、協働しながら学び活動し続ける生徒の育成	<p>各授業において、主体的・対話的で深い学びを推進し、他者と協働して問題解決に取り組む場面を設ける</p> <p>学校行事・生徒会活動・部活動などを通して、多様な他者と関わり合い、良好な人間関係を形成できる場面を設ける</p> <p>教職員間での連携や保護者との連携を通して、生徒の良好な規範意識を育成する</p>	<p>・授業アンケート</p> <p>・学校行事の計画実施</p> <p>・部活動の活性化</p> <p>・教員間の情報共有</p> <p>・保護者への情報発信</p>	<p>○学校教育目標の実現に向け、教職員一丸となって授業改善に取り組んだ。主体的・対話的で深い学びを推進するとともに、他者と協働して問題解決に取り組んだと回答した生徒は85%を超えている。</p> <p>○学園祭や地域行事、ボランティア活動等の学校行事を通じ、多様な他者と協働する場面を数多く設定し、良好な人間関係の育成に取り組んだ。教員と生徒、生徒間等で良好な人間関係が形成できたと回答した生徒は79%、多様な立場の人たちと関わり合う場面が増加したと回答した生徒は88%であった。いずれの回答も昨年度を上回っており、良い傾向がみられる。</p> <p>○今年度より導入されたBLENDIについて、学校との連絡・連携がとれていると回答した保護者は88%であった。</p>	A	<p>○ICTによる教材提示や課題配布、調べ学習、また、グループワーク等による他者との意見交換・共有等、各授業において教職員が多様な工夫を凝らしている。今後、教科会議や職員相互授業参観等を通じ、授業改善を推進していきたい。</p> <p>○学園祭や体験学習等に生徒が主体的に参加し、多様な他者との良好な人間関係を構築することができた。来年度に向け、瑠璃店や体育祭のあり方、方向性を考えていきたい。</p> <p>○保護者から情報提供のタイミングを早くして欲しいとの要望が寄せられている。来年度以降更、意識して実践していきたい。</p>
3	地域・社会とのつながりを通じて、社会に貢献できる生徒の育成	<p>「峡南地域学」「総合的な探究の時間」「LHR」等を活用し、外部機関と連携しながら職業教育を推進すると共に、「青洲学」を通して地域を知り、将来の地域貢献への基盤をつくる</p> <p>挨拶の励行や生活習慣の指導を通じて、将来の社会生活における良好な人間関係づくりの基盤をつくる</p> <p>生徒や保護者・地域への情報提供を充実させ、生徒の進路意識の向上と、保護者・地域の学校への理解を図る</p>	<p>・計画的な実施</p> <p>・外部との連携</p> <p>・地域社会への関心度</p> <p>・校内での挨拶の状況</p> <p>・服装、髪型、遅刻状況等の様子</p> <p>・各種便りの充実</p> <p>・HP等の充実</p>	<p>○「青洲学」におけるフィールドワークやグループ学習、外部講師による講演会実施、スタディーパレー活用による実践授業等を通じ、地域の課題発見や連携の大切さを知る機会を設定した。また、地域行事やボランティア活動等への参加を通じ、地域全般について深く考える機会となった。</p> <p>○挨拶や生活習慣が自主的・主体的にできるようになったと回答した生徒が87%を超え、挨拶やマナー等、社会の一員になるための指導が適切に行われていると回答した生徒は81%であり、いずれも昨年度より高い評価となっている。</p> <p>○生徒向けの各種便り(Team等)により、情報が適切に提供されていると回答した生徒は82%、ホームページにより適切な情報が学校から発信されていると回答した保護者は77%であった。いずれも昨年度より高い評価となっている。</p>	B	<p>○「青洲学」は6年目を迎え、峡南地域全般について知り、将来の地域貢献を考える機会となっている。峡南地域の高校として、地域とともにあり続けるとともに、地域の課題解決・発展に寄与できる生徒の育成に励んでいきたい。</p> <p>○挨拶やルールの遵守に対し、生徒が主体的に取り組めるよう、先行的な生徒指導・支援を通じて、豊かな心の教育を実践していきたい。</p> <p>○係職員を中心に、学校生活の様子をHPに掲載するなど、積極的な情報公開を心掛けている。また、HR担任や教科担任が、Teamsを積極的に活用し、予定や行事の情報は提供や課題の配布を実施している。</p>
4	教員の働き方改革に関する取組を推進する。	<p>勤務時間管理の徹底と適切な勤務時間を設定し、勤務時間や健康管理を意識した働き方を徹底する。</p> <p>「きずなの日」(放課後に部活動や会議等を実施しない日)など、生徒と向き合う時間を確保する。</p> <p>部活動ガイドラインを遵守した部活動運営に取り組む。</p>	<p>・勤怠管理</p> <p>・学校評価アンケート</p> <p>・学校評価アンケート</p> <p>・学校評価アンケート</p>	<p>○日々の勤務時間管理を「勤退管理」ソフトで適切に管理していると回答した教職員は90%と高い数値を示し散るが、時間外在校等時間の上限等に関する方針「月45時間以内」の上限を超えている教員は、年間平均で42%と高く、勤怠管理記録が時間外在校等時間の縮減に繋がっているとはいえない現状がある。</p> <p>○「きずなの日」に、部活動や会議をせずに生徒と向き合う時間を確保したと回答した教員は66%、「きずなの日」には、定時以降早めに退校することを心がけたと回答した教員は75%となり、昨年度よりも良い傾向がみられる。</p> <p>○部活動では、合理的でかつ効率的・効果的な指導を行っているとして回答した教員は、75%、平日1日及び土日の一方を休養日としている部活動は87%であった。</p>	B	<p>○働き方改革が進む中、時間外在校等時間が年々増え、基準の45時間を超える教員数が42%と高い。このような実態を踏まえ、教職員としての業務内容の適正化、勤務実態把握に基づいた業務量の平準化を図ってきたい。</p> <p>○きずなの日の意味を全職員で再認識し、「通常の1日との違い」を意識・活用できる職場風土を醸成していきたい。</p> <p>○多くの部活動で多くの生徒が積極的に活動している。部活動の取り組みが、生徒の健全な発達・成長に繋がられるよう部活動ガイドラインを遵守していきたい。</p>

学校関係者評価	
実施日(令和8年2月20日)	
評価	意見・要望等
4	<p>・教員対象と生徒対象のアンケート集計では、各項目5と4の合計が80%を超えている教職員の方々の尽力に敬意を表します。1点気になるのは、「学習に関する悩みについて気軽に相談できる機会・体制を取っている」という項目に対して教職員は86%ができていると回答しているのに対し、生徒は67%と隔たりがあるため改善の必要性があると感じる。</p> <p>・ICTの活用等、他校よりも先んじている印象があり、是非そのまま推進していただきたい。コミュニケーション能力を学び得られる探究の発表などを活かし、更なる成長を促して欲しい。</p> <p>・卒業生の進路状況等の報告を受け、各々が目標を定めその実現に向けて努力していることを感じることができた。自己実現を目指す上で、確かな学力をつけることは欠かせないと考えます。青洲高校の学びが、生徒にとって社会を生き抜くための力となっていると感じました。</p> <p>・授業改善とよき細かな指導により基礎基本の定着が確実に図られている。ICT教育の積極的な活用により学習意欲と理解度が高まり、生徒一人一人の主体的な学びが促進されている。確かな学力を基盤に、社会を生き抜く力の育成が着実に進んでいると評価できる。</p> <p>・ICTの活用については、確かな学力や主体的な学びにつながる検証する難しさがあると思う。義務教育段階では以前よりも書けない、重くが苦手・面倒と感じる子供が増えていると思う。ICTを道具として活用することの必要性と、そのことで何か伸びずらなくなるという不安がある。</p> <p>・ICT危機をうまく使いながら、充実感をもてる授業を受けることができている様子がありました。授業を通じて興味関心を持つことが増え、単に学ぶだけでなく、日常の様々な場面で使うことができると思います。更なる向上を期待します。</p> <p>・社会上で生きる力んの育成、その必要性と共に良く実施されている。</p>
4	<p>・生徒アンケートの集計結果より、話し合い等が問題解決につながっている場面が多くあると感じました。特に、学校行事や部活動を通して主体的に活動し人間関係を醸成していると感じました。</p> <p>・互いの個性や価値観を尊重する教育活動が丁寧に行われており、多様性を認め合う風土が着実に醸成されている。協働的な学習や学校行事を通して他者と協力する姿勢が育まれ、生徒が主体的に学び続けようとする態度の向上がみられ高評価できる。</p> <p>・特に学校行事や部活動等を通じて多様な立場の人たちとかわかりあう場面を多く感じていることがアンケートからうかがえます。卒業する生徒がスムーズに社会に出ていけるような活動を、これからも継続していただきたい。</p> <p>・学校行事等を通して、生徒の意識への浸透が見られ感謝している。今後も地域等のさらなる連携・協働のもとで生徒達の成長を支えるよう推進していきたい。</p> <p>・日常的な学校生活はもとより、青洲学や活発な部活動等の教育活動が、生徒達に多様な学びを提供していると考えます。</p> <p>・共に学び共に考え共感していける活動ができている。</p> <p>・生徒への尊重を大前提に教職員も高みを目指して育成の共有がある。</p> <p>・多様性の概念を共通認識できるように努力する姿勢が見受けられる。</p>
4	<p>・青洲学探究発表会を拝見し、山梨や地域・地元産業者や観光イベント等をテーマとして取り上げ生徒たちの目線で発表に取り組み自分たちの考えを発表する姿に感心しました。</p> <p>・学校の枠にとらわれず、地域との交流・交わりができていると評価できている準備ができている。</p> <p>・地域活動における積極性を評価。自ら考えるこへの指導、社会貢献できるための思考プロセスを指導・育成しており素晴らしいと感じる。</p> <p>・瑠璃店は地域とつながる良いイベントです。部活動以外でも溶接競技等の大会でも活躍されており、地域社会との良好な関係を築いている。</p> <p>・地域や社会と連携した教育活動が計画的に実施され、生徒が社会との関わりを実感できる機会が充実している。体験的な学びを通して責任感や公共心が育まれ、社会貢献しようとする意識と行動力の向上が着実に図られていると評価できる。</p> <p>・地域イベント等の参加協力が拡大している。「青洲学」によるところの地域への思いが確実に定着していると思う。</p> <p>・瑠璃店やボランティア活動等、地域との連携を推進する教育活動があり、生徒に対する社会性の育成に大きな効果をもたらしていると考えます。</p> <p>・中学生と複数の行事で交流していただきありがたい。高校生の発表等から学ぶことが多い。町でずれたがった時など挨拶をしてくれたり返したりできる生徒が多いと思う。</p> <p>・社会に目を向けることができる機会をより多く待てるようにしていきたい。</p>
3	<p>・全国的に「働き方改革」が提唱されるようになってきた年数が経っているとは思わないが、従前は部活動や課外活動等が当たり前になり学習を削いでいた人もいたと思います。それを意識し実践してきている成果が出てきていると思います。</p> <p>・業務の見直しや効率化を着実に進め、公務の平準化やICTの活用による負担軽減が図られている。会議や行事の精選など組織的な改善も進み教員が生徒と向き合う時間の確保につながっている点は高く評価できる。</p> <p>・先生方の思いを大切に、満足度・達成感が得られる環境づくりを優先してください。保護者の理解を得て環境づくりを進めてください。</p> <p>・勤退管理が90%以上という高い値で実施されている一方で、時間外在校時間の長い教員も存在しているのを、組織として対応をさらに進めて欲しい。</p> <p>・青洲高校の実情を把握していないので感覚的なものになってしまうが、義務よりも高校の方がハードワークではないかと考える。目標値は掲げられているが、実際の取り組みは学校に委ねられている現状を見たときに、職員のモチベーションを保ちながら業務改善を推進していくことが、益々求められていると考えます。</p> <p>・小中高いずれにおいても、まだ教職員の意識改革とまでいかない状況がある。超過勤務の多い職員の固定化もあるのではないかと。</p> <p>・過重労働・過労とならないよう考えられ工夫されている。</p>

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。